

すみだ史談

第45号

会長挨拶

小木曾清三

日本も戦後七十年を迎え色々な方々の色々な思いがあると思います。特に三月十日の東京大空襲では十万人の死者が出ました。その内墨田区では六万四千三百

二十二人の尊い命が失われました。実に六割強の人々が墨田区で亡くなったことになりました。人命だけでなく焼夷弾によって焼け野原となり、焼けなかったところが極わずかという悲惨な所でもありません。あらゆる文化財産や遺跡なども失われてしまいました。過去の史物は残りま

西山幸一郎様を偲ぶ

「押絵羽子板 西山鴻月」

在原 マサ

謹んでいと高きに在します西山様をお偲び申し上げます。

西山様とは去る昭和38年当時の墨田区第一庁舎で史談会設立準備会でお目にかかったのが、初めてでございました。その頃、既に東京都知事賞を受賞されるなど墨田区伝統工芸保存会役員としても熱心にご活躍中であられたと記憶しております。

戦前お若い頃から千住の面相師・倉田勝吉氏のもとで技術の修得修業をなされ

せてでしたが区民の心の中に大空襲の後も墨田区の良いところ(景観や人的交流、環境整備)を汲み入れられ七十年経った今の墨田区があるわけです。復興には沢山の人が関わってくれたことでしょう。その心や意気を忘れずにますます発展していくことを希望しています。

教育基本法ができて七十年。教育方法は変わっても先人達の教えは変わらぬはずです。七十歳以上の方々にはますますお元気で若人達に良いところは伝承してほしいと思います。

さて、わがすみだ史談会では戦後七十年のすみだとすみだの誇る大相撲の両国昭和14年に19歳で独立されたとのことですが、平成26年までの長期間、羽子板の押絵・面相制作の第一人者として生涯を全うされたのです。常に前向きに、展示会等開催され国内はもとより海外にも発進されるなど目を見張るような活躍ぶりでした。

すみだ史談会の研修会講師として区内の伝統工芸の職人の方々を次々とご紹介いただきその素晴らしい技術・作品などを見聞させていただき感心感動したものです。鴻月様ご自身も講師として羽子板の話・歌舞伎の深い造詞・押絵の実技などをお示しくだしました。常に優しい

国技館に本年度はスポットを当て勉強していきたいと存じます。個人の歴史観点とからめて共通の歴史観をもって傳承していきたいと思ひます。ぜひご参加をいただき、仲間を誘ひ、楽しみたいと思ひます。同時に新規会員も募集してありますのでよろしくお願ひいたします。



独特の語り口は印象深く心に残っております。墨田区名誉区民・東京都名誉区民として顕彰されましたことは史談会の誇りであります。篤子夫人・ご子息和宏様の熱いサポート力に改めて敬服いたします。新時代には今を原点として新しい何かがスタートしていることですが、江戸時代からの押絵羽子板は、伝統工芸として比類無きものであります。

どうぞこれからもますます輝き続けますよう史談会一同心から応援いたします。

電柱のある風景

すみだ史談会会長 小木曾 清三

今すみだの景観が劇的に変わっています。大きな道路では、電柱を取り払い、電線を地下に移しています。写真によって見ていきたいと思います。

現在の錦糸町駅南口京葉道路から亀戸方向です。



都電が走っていた錦糸町駅前



押上駅前交差点



高度成長時代には、縦横無尽に電線が架かっていました。押上の駅前にはトロリーバスが走っていて、その電線もあります。

電線がないことで、街の景観がすっかり変わってしまいましたが、道路に電信柱があり電線がはりめぐらされていた時代があったことを忘れたくないものです。

あたたかく—人へ・街へ

Heart to Heart

緑からつながる地域の輪

Face to Face

お客様の一番身近な存在に

Smile to Smile

東京東信用金庫



タワービュー通り

一般社団法人すみだ観光協会は、皆様のご入会をお待ちしています。

一般社団法人墨田区観光協会は、観光事業の振興を通じて墨田区全体の経済発展と活性化を図り、区民生活の向上に寄与することを目的としています。この目的にご賛同の上、ご入会を御願いたします。

会費と会員資格

入会金 ↓なし

会費 ↓1口につき年額2000円

正会員 ↓総会における議決権がある

会員(個人2口以上、団体はなるべく

5口以上でお願いします。)

賛助会員 ↓総会における議決権のない

会員(1口)

正会員特典

◎会員企業・団体・店舗のご案内や宣伝活動についてご相談させていただきます。

◎ご希望により当協会のウェブサイトに会員情報を掲載させていただきます。

◎当協会のガイドブックや観光マップおよびウェブサイトへのバナー広告等の掲載料が優遇されます。

◎当協会が行うイベント、観光事業へのご案内や特別ご招待・賞品の会員割引など(賛助会員含む)

お問い合わせ

一般社団法人墨田区観光協会

〒130-0001 墨田区吾妻橋3-4-5

☎03-5608-6951 FAX03-5608-7130

玉ノ井の地名由来

と歴史(2)

全国の玉ノ井の地名

高木 新太郎

二. 地名辞典等による

玉ノ井・玉井関連地名

全国の玉ノ井はどのくらいあるか。図表 1 と図表 2 が結果である。角川書店の地名辞典をベースに、他の辞典で補充したものであり、実際にはもう少しあるかもしれない。日本全国で 28ヶ所である。地域分布を見ると、東北 6ヶ所、関東・山梨 3ヶ所、北陸 3ヶ所、東海 3ヶ所、近畿 9ヶ所、中国・四国・九州 4ヶ所である。地域区分にもよるが、近畿と東北が多い（特に近畿は約三分の一）。全国的視点から見ると、玉ノ井は近畿から東日本に掛けて分布するという特徴がみられる。

図表 1 玉ノ井・玉井等の関連地名 (1)

地名		所在地		現在所在地などの略述
一連番号等		県名	郡・市名等	
1	玉の井町	愛知	名古屋市	1939 年～現在の町名
2	玉ノ井	青森	北津軽郡 中里町	尾別一つの集落として現所在
3	玉ノ井	山形	西村上郡 朝日町	1889 年～現在の大字名 (1954 年より)
4	玉ノ井	愛知	葉栗郡 木曽川町	1906 年～現在の大字名
5	玉ノ井	京都	綴喜郡 井手町	玉井庄 (たまいのしょう) の説明
6	玉ノ井	京都	船井郡 八木町	1889 年～現在の大字名
7	玉井	埼玉	熊谷市	1889 年～現在の大字名
8	玉井	福井	坂井郡 三国町	1889 年～1983 年の町名
9	玉井	福島	安達郡 大玉村	1955 年～現在の大字名
10	玉井町	岐阜	岐阜市 玉井町	1909 年～現在の町名
11	玉井町	大阪	豊中市 玉井町	1942 年～現在の町名
12	玉井町	石川	金沢市	1869 年～現在の町名
13	玉ノ井	東京	もと寺島村大字玉井	説明のみ
14	玉ノ井	山梨	もと山梨郡 玉井郷	「たまのいごう」の説明
15	玉井	岡山	もと児島郡の村	1889 年～1998 年の自治体名 (玉野市)
16	玉井村	岡山	赤磐郡 瀬戸町	1889 年～1955 年の自治体名 (瀬戸町)
17	玉井新田	大阪	東大阪市	1910 年～1967 年は玉井という大字名
18	玉井	大分	北海部郡 佐賀関町	戦国期の地名
19	玉井町	福井	福井市 玉井町	1874 年～1958 年の福井市の町名
20	玉井	滋賀	草津市	平安末期の地名
21	玉の井	滋賀	坂田郡 山東町	玉井もある。平安末期の地名
22	玉井里	京都	京都市 山科区	条理の地名で「たまいがり」と読む
23	玉置川	奈良	吉野郡 十津川村	「たまいがわ」と読む。 1889 年～現在の大字名

(注) ここでは現在(文献出版の時点)から見て、年代に力点を置いて略述した。1889 年以後が中心となる。またその後の市町村の合併等で変化している。

(出典) 竹内理三、他編『角川 日本地名大辞典』。出版年は県によって異なる。

図表 2 玉ノ井・玉井等の関連地名 (2)

地名		所在地		現在所在地などの略述
一連番号等		県名	郡・市名等	
24	玉井	香川	綾歌町富熊	清泉が湧く所があった
25	玉ノ井	宮城	栗駒町中野玉ノ井	
26	玉ノ井山	宮城	栗駒中野玉ノ井山	
27	玉井	青森	森田村 字玉井	
28	玉井	京都	和束町 小字玉井	
29	玉井庄	台湾	台南州 新北郡	1920 年に庄が合併してできた。

(出典) 24 番は『日本歴史地名大系』(平凡社)。25～28 番は『現代日本地名よみかた大辞典』(日外アソシエーツ)。29 番は戦前の『日本地名大辞典 第四巻』(日本書房)。

日本橋七福神巡り



1月4日(日) 午後から「すみだ史談会」主催の日本橋七福神巡りに参加してきました。日向と日陰の寒暖差を肌で感じながら青空の下を歩きました。日本橋三越のこの日一日の七福神巡りスタンプラリーと重なり、どここの神社に行っても人ひとで拝観の行列が出来ていました。

日本橋七福神は他所とは異なり、すべて神社で構成され、しかも日本で一番巡拝が短時間でできると云う特長をもっているようです。隅田川七福神と大きな違いは各神社の敷地が狭い、境内が無いことです。

すみだ史談会一年の活動報告

平成二十六年年度

五月十八日(日) 第二十六回定期総会

生涯学習センター研修室1

事業報告・決算報告、事業計画・予算案等 提案通り議決された。

記念講演 『鬼平・長谷川平蔵』

七つのナゾを追う

講師

獨協医科大学講師 佐々木 明氏

実在の「火付け盗賊改方長官 長谷川平蔵」に関するエピソードを七つのナゾとしてまとめ、その人となりを解説された。

七月十三日(日) 史跡探訪

落語発祥の地を巡る

向島・墨堤散歩

講師

恵泉女子大学講師 瀧口 雅仁氏

暑い日の午後、区役所から墨堤、向島近辺を歩き、三囲神社で解散。落語の舞台となった場所や江戸落語中興の基となった秋葉神社等を案内していただいた。

九月二十一日(日) 文化講演会

生涯学習センター視聴覚室

演題 「向島の三隠居」

松の隠居を中心として

講師

墨田区文化財調査員 松島 茂氏

向島は江戸風流人のあこがれであった。絢爛より風雅を求めて隠居所が多くあったとのこと。松・菊・梅の三隠居について、場所を推定し、住んでいた人達の話をしていただいた。

十一月十日(日) 史跡探訪

北斎ゆかりの地を歩く

講師

すみだ史談会会長 小木曾 清三氏

素戔鳴尊を描いた牛島神社の北斎の画を鑑賞、三囲神社・隅田川兩岸総覧に描かれた山谷堀・待乳山聖天等を見て、北斎の墓がある誓教寺で解散した。

平成二十五年

一月四日(日) 史跡探訪・新年懇親会

日本橋七福神めぐり

人形町駅に集合。日本橋七福神を巡った。

た。

二月十五日(日) 研究発表会

生涯学習センター視聴覚室

特別区による自治権拡充運動の歴史と

「大阪都」構想

すみだ史談会 会員 佐藤 篤

○電線のある風景

すみだ史談会会長 小木曾 清三

★会員訃報

西山 幸一郎様
太田 三十雄様

ご冥福をお祈りします。

★新入会員

寺内 照喜様 墨田区東駒形
清水 英長様 墨田区文花
増田 進様 墨田区八広
畠 知里様 墨田区八広
佐藤 八郎様 墨田区東向島
木村たけつか様 墨田区吾妻橋
よろしく御願います。

編集後記

二月十五日佐藤篤氏による研究発表『特別区による自治権拡充運動の歴史と「大阪都」構想』がありました。政治に無頓着な小生にとって快適なカンフル剤になりました。本会も高齢化が進み、退会者が増えてきました。会の存続のため新入会員を増やしていきたいものです。会員の皆様、一年間ありがとうございました。

すみだ史談 第四十五号

平成二十七年四月 発行

墨田区吾妻橋一―二十三―二十
五五〇八―六三一〇

発行人 小木曾 清三